

## 神戸日独協会ドイツ語講座特別講座

# 「ドイツ語をより身近に、より深く」

関西で64年の最も長い伝統を持ち、グローバル時代に対応した多彩なクラスを提供している「神戸日独協会ドイツ語講座」は新年度開講を機に、ドイツ語教育に関係する協会理事によって、ドイツ語に対する関心・興味・理解を改めて深めていただける特別講座を開講します。通常授業とは異なる観点、情報化時代に即した授業方法により、担当者の専門分野からドイツ語に関する又はドイツ語によるトピックを取り上げることにより、通常授業では提供できない講座を開催します。

この1年間コロナ禍のためにホームステイを余儀なくされ、その間にドイツ語を独習された方、学習しようともその機会が得られなかった方もいらっしゃるでしょう。学識豊かでドイツ語教授経験豊富な講師が、入門・初級者から中級者に分かりやすく懇切丁寧な授業を行います。ドイツ語をこれから学ぼうとする方、現在学習されている方、ブラッシュアップしようとする方に最適の講座です。ZOOM 使用(一部対面授業併用)により行いますので、時間の都合や感染予防などで教室へ通えない方にお勧めの講座です。公開講座ですので、非会員の方も是非ともご参加ください。

**開講日時:** 4～6月の土曜日午前10:30～12:00

開講月日と講義内容・担当講師については、下記「講義内容と講師紹介」をご覧ください。

**授業形式:** ZOOM によるオンライン授業。一部は協会会議室での対面授業を併用。

**定 員:** 各講義30名

**受 講 料:** 1回会員1000円 (非会員1500円)

全9回参加割引会員7000円 (非会員10500円)

(すべて税込)

**お 申 込:** 各担当講師の講義は連続授業ですので、2～3回単位でお申込みください。

神戸日独協会事務室へ電話(078-230-8150)またはメール(info@jdg-kobe.org)にて、希望講義テーマを4月15日までにお申込み下さい。

申込締め切り後も各講義に余裕がある場合には受け付けますが、それぞれ2日前の木曜日まで事務室へお問い合わせください。

申込後、入金を確認し次第、アクセスのリンクをお送りします。

## 講義内容と講師紹介

第1回(4月17日) 第2回(4月24日) 第3回(5月8日)

### 効率的な自学自習ができるようなドイツ語力を身につけよう

担当: 常務理事 Stefan Trummer=Fukada(元神戸大学教授)

この講座はリアルタイム・オンライン講座ですが、インターネットで自習できる能力を身につけることを目標としています。初心者向けの講座ですが、すでに勉強を始めているがなかなか進まないという方にもお勧めです。「まずは単純な会話を身につけよう」という、通常の教科書とは全く違う方向からのアプローチで、ドイツ語でインターネットから情報を得、動画を楽しんだりできるようになるには何が必要かを考えたカリキュラムです。レッスン時間全体のうち約 60%では単語ひとつづつを訳すなどではなく、より大きな関連性を把握するための文法及び語彙、アクセントの配置などについて学び、残りの約 40%でリスニングの訓練をします。外国語の動画などでは知らない単語が出てくるのは当たり前のことですが、きちんと聞き取り、適切な発音で真似ができ、大体のスペルが分かれば簡単に調べることができます。こうした基礎能力を身につけることによって、自習だけでなく、会話教室や次のドイツ語圏への旅もより楽しく、より充実したものになるに違いありません。

**講師紹介** オーストリア生まれ、ウィーン大学修了。在学中にオーストリア政府奨学生として日本留学。1996年以降日本の大学で教鞭を取る。音楽と演劇、通訳について専門的に学び、音楽教育と外国語教育及びその歴史についての論文多数。ヨーロッパでの外国語学習のためのガイドラインである「ヨーロッパ言語共通参照枠 CEFR」の日本導入・普及に尽力。学術博士。

第4回(5月15日) 第5回(5月22日)

### ドイツ語の謎を解き明かそう

担当: 会長 柘田義一(神戸大学名誉教授)

ドイツ語で、動詞などの語が様々な変化するのはなぜ? 目的語が3格や4格や前置詞格になるのはなぜ? 現在進行形がないのはなぜ? 完了形の助動詞に haben と sein があるのはなぜ? 「春が来た」を「来た」という完了形ではなく Der Frühling ist da. (春がそこにある)と言うのはなぜ? このような「なぜ」に初級の「文法」や辞書は答えてくれません。初級の「文法」は将棋に譬えれば、各コマの動かし方を覚えさせるものなのです。いざ将棋盤を前にしてコマをどのように打っていこうか、コマの動きを盤上でどのように理解しようかとなると、話は別です。辞書もあくまで語義を教えるもので、ドイツ語の文章での働きについては教えてくれません。ドイツ語を始めようと思っている方、習っている方、もう分かっている方とともに、このような「なぜ」を通して「ドイツ人はどのように物事をとらえて、どのように言葉で表現をするのか」について探ってみませんか。

**講師紹介** 専門はドイツ語学(史的統語論)、中世ドイツ語。30年余り神戸大学のほか兵庫県の諸大学独文科にてドイツ語学概論、ドイツ語史等を担当。その間ミュンヘン大学留学、大学入試センター客員教授、阪神ドイツ文学会会長兼日本独文学会阪神支部長などを歴任。30余年間神戸日独協会「ドイツ語講座」を担当。ドイツ連邦共和国功勞勲章受勲。

第6回(5月29日) 第7回(6月5日)

## ナチ時代を生きた2人の女性～ランデスクンデから考える

担当: 理事 杉谷眞佐子(関西大学名誉教授)

日本では通常外国語＝英語とみなされ、「国際共通語」として英語が学校教育の主流となっています。従ってその言語が話される社会・文化・歴史の学習は必ずしも教科構成には含まれません。しかしヨーロッパでは2001年刊行の『外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠』(CEFR)も示すように言語と文化の統合的学習が普通で、特にドイツでは「ランデスクンデ」や社会・文化・歴史の領域が外国語学習の主要な構成要素となっています。即ち、英語の発音や文法等は同じでも教科「英語」の構成は国により異なるのです。「外国語としてのドイツ語」では現代ドイツをより深く理解するために、ナチ時代の題材が選ばれることが少なくありません。そのような題材を通じて戦後生まれの新しい表現・意味内容をより深く理解することが可能になります。今回は同時代を対照的に生きた二人の女性、ゾフィー・ショルとトラウデル・ユングを取り上げ、そこから第二次大戦をみる戦後社会の変遷や Mitläufer という単語について考えてみたいと思います。

**講師紹介** 専門はドイツ語教育とランデスクンデ。ドイツの外国語教育政策を中心に欧州評議会や欧州連合の複言語主義教育の研究を行う。日本独文学会ドイツ語教授法ゼミ担当理事、日本言語政策学会副会長等を歴任。

第8回(6月12日) 第9回(6月19日)

## ドイツ語発音のコツ～ドイツ語の母音・子音・リズムに親しもう

担当: 理事 林 良子(神戸大学大学院教授)

ドイツ語の発音が得意な方も苦手な方も、ドイツ語の音声は日本語とそもそもどんなふうに違うのかについて、考えてみませんか。人間はそもそもどのように声を出しているのか、ドイツ語の母音や子音は日本語や英語とどんな違いがあるのかについて、映像資料や発音練習用のソフトを使用して、ドイツ語の母音や子音の成り立ちについて解説します。参加者の皆さんにも練習を行っていただく予定です。第1回目は、ドイツ語の母音や子音といった個々の音を中心に、第2回目は、文になったときにどのようなリズムを作っていくのかを中心に解説、練習を行います。短いテキストや、詩の朗読にもチャレンジしていきます。

**講師紹介** 専門は言語学・音声学。外国語においてどのように音声を知覚、産出されるのかについて実証的な研究を行い、ドイツ語や英語、外国語としての日本語に関する音声習得教育・研究に役立つデータベースやソフトウェアの開発等を手がける。1995年～1998年にミュンヘン大学、キール大学音声言語研究室に留学、東京大学大学院にて博士(医学)取得後、日本語教育、言語聴覚障害分野との共同研究もすすめる。現在は神戸大学大学院国際文化科学研究科情報コミュニケーション講座教授。主にヨーロッパの大学との協定を進め、国際交流事業に従事。日本音声学理事。